

【研究テーマ】

1. 看護師 2 年課程(通信制)における教育の在り方

【研究概要】

1. 入学要件の 1 つである准看護師としての就業年限が 10 年から 7 年、さらには 5 年へと短縮が検討されている看護師 2 年課程(通信制)において、教育の質を確保するため、学習成果のアウトカムを示す必要がある。本学における技術教育の成果を明らかにするとともに、通信制教育では困難である技術教育の在り方を、臨床での看護技術の身つけ方を含めて検討することで准看護師としての就業経験を短縮した場合の技術教育への影響や課題を検討していくことを目的として研究を進めている。

【研究テーマ】

医療安全の中の「ヒヤリ・ハット体験」をテーマに、在宅における訪問看護師を対象として調査研究に取り組んでいる。

【研究概要】

現在、在宅での訪問看護師が体験するヒヤリ・ハット事例の特徴と、在宅における終末期医療について看取りの体験とその時感じたヒヤリ・ハット事例についての調査を実施し、その結果を日本在宅ケア学会で発表した。これまで中小規模病院(200床以下)でのヒヤリ・ハット体験の実態を大規模病院と比較し特徴を明らかにしてきた。今回は在宅に場を移し、同じように調査し、ヒヤリ・ハット内容の特徴を施設における結果と比較し特徴を明らかにした。特に在宅での看取りについて自由記述をテキストマイニングにより分析し、現状と今後の課題を見出した。

【研究テーマ】

- 1 通信制課程学生の、看護援助の思考過程の構築
- 2 通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容

【研究概要】

1 学生が対象に提供する援助について、個別性と科学的根拠を踏まえた援助を具体的に展開する思考過程を理解するための方法として、ワークシート及び模擬実践を用いた学習を展開する。その学びの結果を、それまでの看護実践における自己の思考過程と、学習を通しての自己の思考過程の変化から、教員が期待する変化を比較し、教材および学習方法としての有用性を評価する。

2 在宅死について経験値のない通信制課程の学生に、映像を通して具現化し、ワークを通してさらに深めていく学習を展開する。学生が在宅死における看護の役割をどのように認識しているかを評価することで、この学習方法の評価と今後の課題を明確にする。

【研究テーマ】

極および超低出生体重児の 18 か月頃の行動と幼児期後期の発達特徴との関連の検討

【研究概要】

本研究の目的は、生後 18 か月頃の極低出生体重(VLBW)および超低出生体重(ELBW)児の行動が、幼児期後期の発達特徴と関連があるのかを明らかにすることである。低出生体重は、自閉症スペクトラム障害等の発達障害のリスク要因のひとつであることが知られている。研究者による 1 歳半~2 歳の VLBW・ELBW 児を対象とした研究結果からは、低リスク児であっても共同注意や言葉の理解、ふり遊びの発達が遅れる可能性が示唆された。今回の研究では、前回の研究に参加した児が 3~5 歳となった際に保護者への質問紙調査を実施し、幼児期後期の行動評価を行い経時的変化を明らかにすることで、生後 18 か月頃の行動から幼児期後期の行動発達を予見できるのかを検討する。

【研究テーマ】

短期大学看護学科 2 年課程(通信制)における母性看護学臨地実習での気づきと学び—グループワークでの学生の記録内容を通して

【研究概要】

入学要件が 10 年から 7 年以短縮された。入学要件 10 年の学生のグループワークを通して、母性看護学臨地実習での学生の気づきと学びを明らかにして、入学要件 7 年の学生の教育内容に繋げたい。

【研究テーマ】

教材研究

通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容

【研究概要】

在宅死について経験値のない通信制課程の学生に、映像を通して具現化し、ワークを通してさらに深めていく学習を展開する。学生が在宅死における看護の役割をどのように認識しているかを評価することで、この学習方法の評価と今後の課題を明確にする。

【研究テーマ】

- 1 精神科医療現場における暴力・暴言問題の多層的検討—暴言や罵声を受けた看護師の感情体験と対処を中心に—
- 2 通信制課程看護学生のテキスト学習に臨む学習姿勢と入学後の生活変化との関連

【研究概要】

- 1 精神科医療現場における「暴力・暴言」問題は単に個人だけでなく、「組織・状況」「社会」まで影響を及ぼしている。「個人」と「社会」のあいだ「組織・状況」における「暴力」の問題を中心に、患者はどのような状況で「暴言」を吐くのか、一方、それを受けた看護師の感情体験と対処はどのような要因が影響するのか、「社会」からみた暴力問題はどのように見えるのか、多層的に検討した結果、偏見や差別が及ぼす状況や社会のゆがみ、矛盾が明らかになり、この問題は精神科医療現場だけの問題ではなく社会全体で考えていく必要があると考えた。
- 2 テキスト学習に臨む学習姿勢を「積極的群」と「非積極的群」の2群の間で、入学後の生活変化との関連性を確認するためにt検定をする。(p<.05)
その結果、入学後の生活変化14項目と有意差が認められたが4項目は認められなかった。有意差がある心理的な理由の一つとして、自己効力感が考えられた。

【研究テーマ】

帰宅願望が強い認知症高齢者に関する研究

【研究概要】

超高齢社会となった我が国では、高齢者数は増加の一途をたどり、2021年現在、高齢化率は29.1%となっている。また、2025年には、認知症高齢者の日常生活自立度II以上の高齢者数は470万人に及ぶと推測されている。要介護認定を受けていない認知症高齢者を踏まえると、この数はさらに多くなると考えられる。

認知症高齢者が、認知症以外の疾患を患い入院し、その後施設入所を余儀なくされるケースも少なくなく、さまざまな要因から混乱をきたすことを鑑み、対象が安寧に暮らせる環境を整えるための方法について検討する。(質的)